1

「型」というものに対する２つの考え

宮本武蔵：日本で最も有名な剣豪
固定した型というものはなく、相手に応じて常に変化する。
あらゆる変化に応じ得る根幹だけが大事。

柳生流：型の習得を重視した剣術の有名な流派
徹底的に型を習得した後には、その型にとらわれずに自在であること⇒あらゆる状況の変化に即応して、最適、最良の技を、無意識のうちに使える境地を求めた。

彼らが求めるGoalは同じ。プロセスは様々にあってよい。

2

空道における「定法」

実践の中で使える「対人型」を模索したもの。

宮本武蔵が言っている「あらゆる変化に応じ得る根幹だけが大事」の「根幹」を習得するひとつの方法として活用できるだろう。
定法のパターンの多くは相手の動作を待ってのものだが、自分から動くことで相手を動かし、能動的に対応することも重要。
定法を通して、相手の動作に対して自身が動く方向（前、後ろ、右、左、下）の多様性を理解することも重要。

3

空道における「定法」

どのような競技であっても、相手に勝つには、
体力、知力（戦略、対応力）、技術、精神力が不可欠。
定法は、知力と技術の向上に資することができるだろう。
知力を高めるための基本的な素材となり得るし、定法の
練習を通して技術の向上を図ることができるだろう。

また定法は、体に不調な箇所があることから組手審査が
難しい場合に、組手審査に代わるものとして利用できる。

4

宮本武蔵の「五輪書」における「空」の記述

「五輪書（Gorin No Syo）」は、彼が確立した剣法の
極意書であり、次の章で構成される。

1．地の巻：Chapter of 地（CHI：Ground）
2．水の巻：Chapter of 水（MIZU：Water）
3．火の巻：Chapter of 火（HI：Fire）
4．風の巻：Chapter of 風（KAZE：Wind）
5．空の巻：Chapter of 空（SORA：Sky）

「空（SORA）の巻」のみが、特異的に、極めて簡潔な
内容の記述になっている。

宮本武蔵の「五輪書」における「空」の記述

有ることを知って初めて無い（足らない）ことを知る。
これがすなわち「空（KU）」である。
自身が「空（KU）」であることを知り、常に怠らず、智と気力を磨き、心の目を研ぎ澄まし、迷いの晴れた状態が、真の「空（KU）」である。
「空（KU）」を「道（DO）」とし、「道（DO）」を「空（KU）」とするべき。

⇒「空（KU）」を追求することを「道」とする、
その手段のひとつが「空道（KUDO）」。